

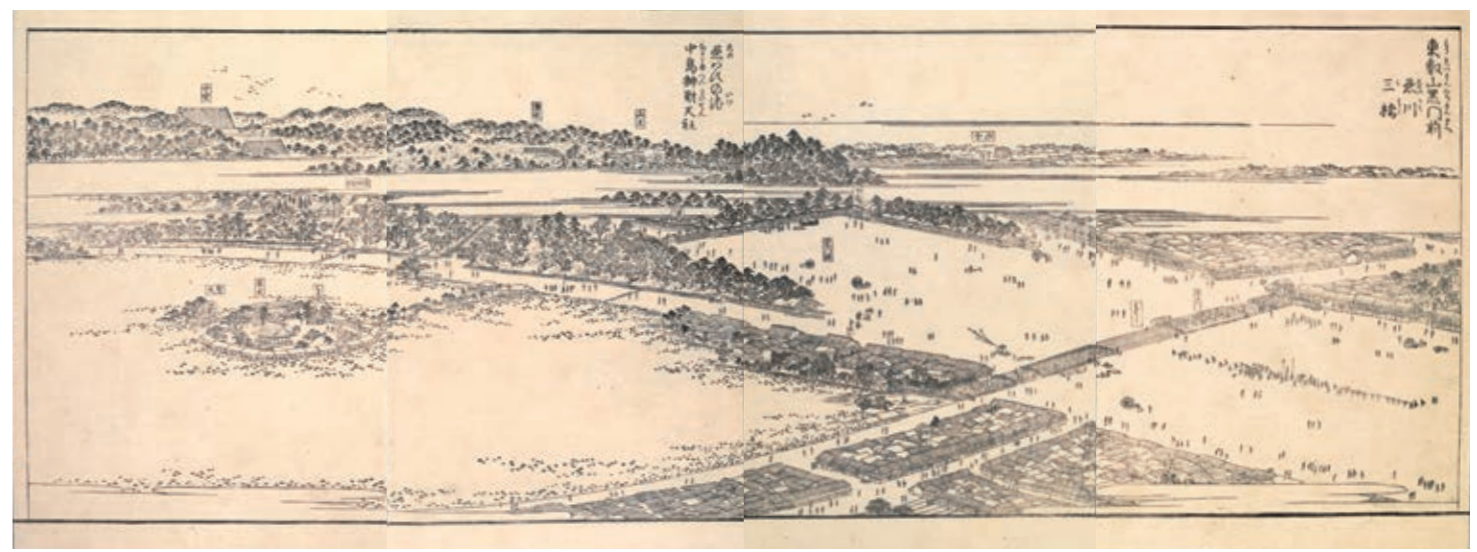
しょう ぐん さん けい お なり みち 将軍参詣と御成道

寛永寺には四代家綱、五代綱吉、八代吉宗、十代家治、十一代家斉、十三代家定が埋葬され、将軍は年忌の法要や毎年の祥月命日にあわせて霊廟に参詣した。

将軍が寛永寺に参詣するルートは決まっていた。まず筋違橋門から江戸城を出ると、現在の秋葉原電気街や末広町駅などを通る中央通り（都道437号線）を通行した。この道は、将軍が通行する道であったことから、江戸時代は「下谷御成道」と呼ばれていた。その後、下谷御成道から下谷広小路に入り、三橋のうち中央の御成橋を渡り、寛永寺の黒門口では向かって右の御成門を通過して寛永寺に入ったのである。



将軍参詣のルート



え どもいしよ ず え じゅうよん へん どうえいざん くらもん まえ
江戸名所図会 十四編(東叡山黒門前)
斎藤月岑他/編、長谷川雪旦/画 天保7年(1836)



かんえいじごさんけいのず
寛永寺御参詣之図
狩野溪雲/画 江戸時代末期

寛永寺に参詣する行列の一行を描く。三橋のうち、中央の橋を渡っていることから、将軍の行列であることが推察される。同様の資料が東北大学附属図書館狩野文庫に、「古代行列画纂」として収蔵されている。それと比較すると、本資料は絵のつなぎ目が一致しておらず、内容が欠けているため、断片をつないで絵巻にしたものと考えられる。



み た て じ ゅ う に し い し た や ま り し て ん
見立十二支 亥 下谷摩利支天
 楊洲周延・延興／画
 明治26年(1893)11月4日

下谷摩利支天は、江戸時代に創建された徳大寺のことを指し、下谷広小路に位置することからその名が付けられた。十二支の亥は摩利支天に仕えることから、摩利支天を安置する徳大寺では、縁日の亥の日に露店が立ち並んだという。その様子は本図上部のコマ絵でも垣間見える。



だ い と う き ょ う し ゃ ば ぎ ょ う に ん お う ら い に ぎ わ う え の ひ ろ こ う じ た い か ん
大東京 車馬行人の往来賑ふ上野広小路の大観
 昭和8~19年(1933~1944)

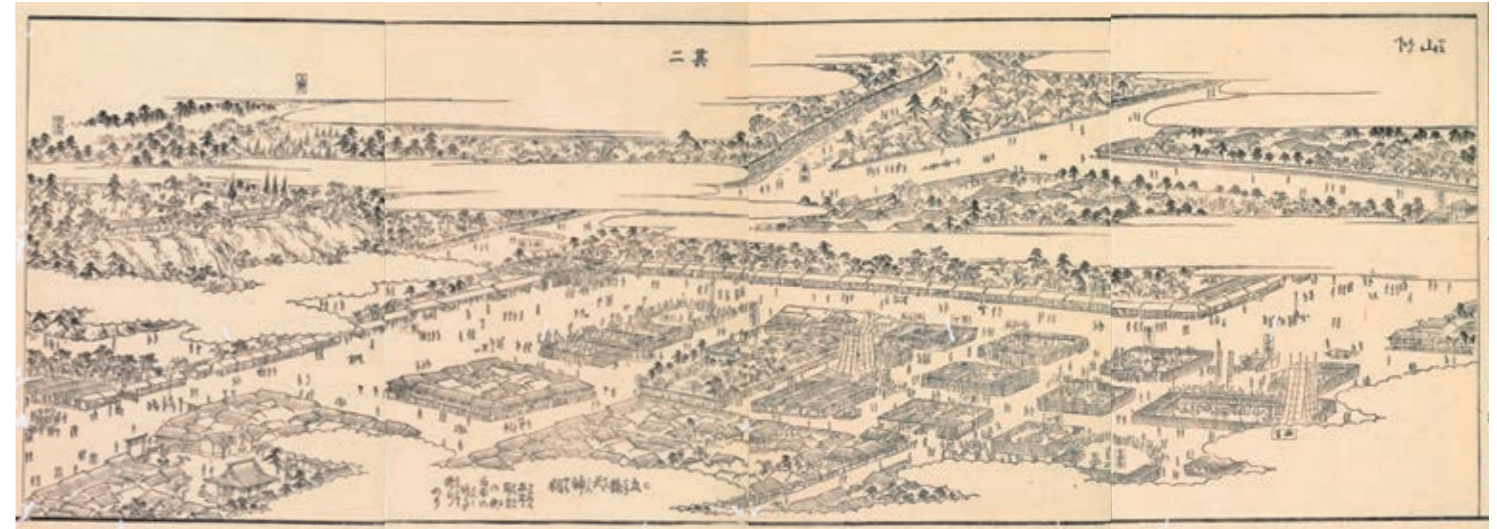


て い と め い し ゃ う え の こ う え ん ひ ろ こ う じ う え の こ う え ん の ぞ
帝都名所 上野公園広小路より上野公園を望む
 大正7年~昭和7年(1918~1932)

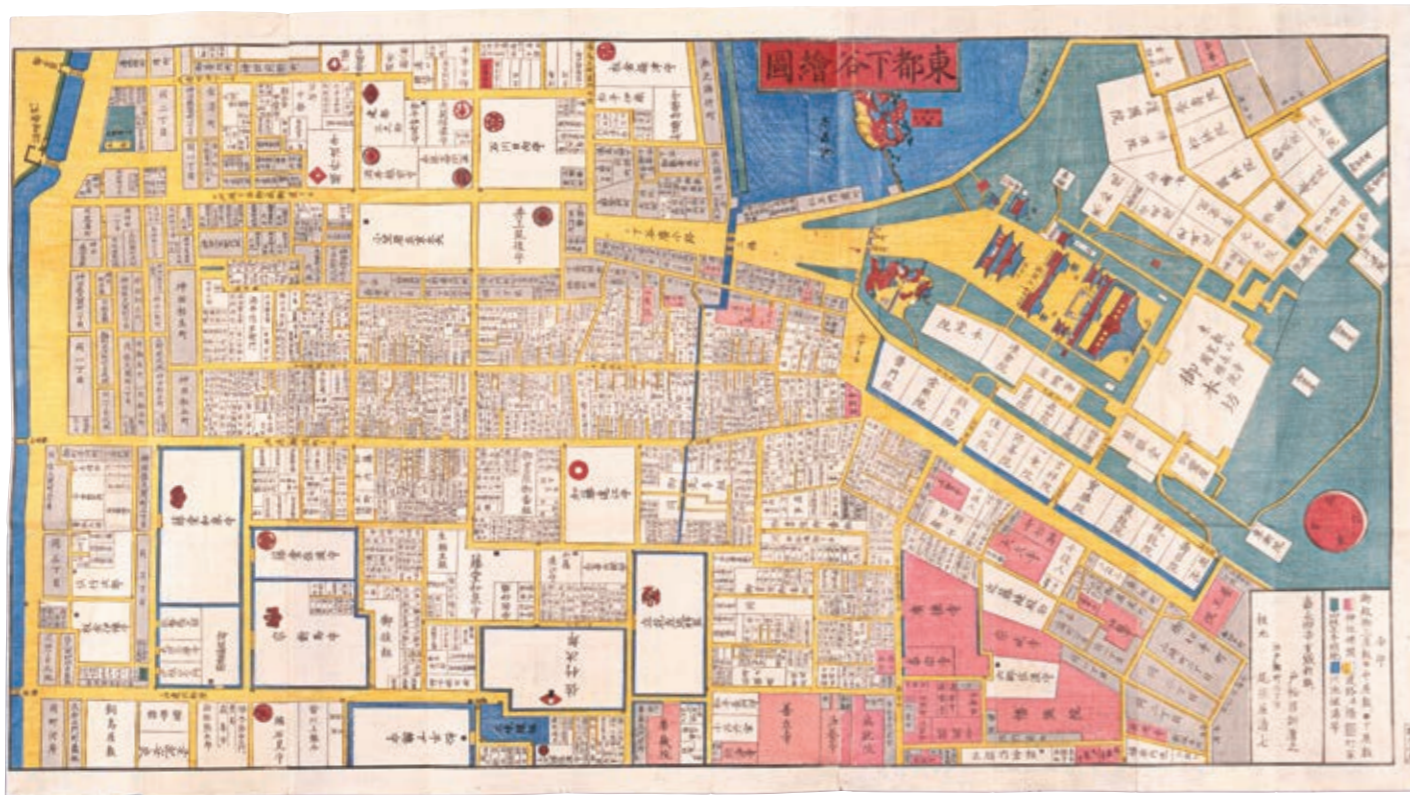
5. 上野山下

寛永寺がある「上野の山」の下にあることから、上野山下（または山下）と呼ばれ、下谷広小路とともに門前町として栄えた。元禄11年(1698)の^{ちよくがく}勅額火事と元文2年(1737)の火事で上野の地域が被害にあうと、上野山下には火除地として明地と道路が一体となった広場が形成された。この広場には以前から床見世が設けられており、茶屋・講釈・見世物・曲馬などが^{よしずばり}葺簀張の小屋で営まれていた。特に見世物は、^{かるわざ}軽業・小芝居・踊り・狂言などと幅広く、江戸屈指の盛り場であった。

上野戦争では戦火に見舞われると、明治2年(1869)に上野山下町として起立する。また明治15年(1882)には、町の一部が日本鉄道株式会社に鉄道用地として貸与され、翌年に上野駅が開業した。



えどめいしよずえじゅうななへんやました
江戸名所図会 十七編(山下)
斎藤月岑他／編、長谷川雪旦／画 天保7年(1836)



おわりやばんえどきりえずしたやえず
尾張屋版江戸切絵図 下谷絵図
戸松昌訓／著 嘉永4年(1851)



めいしよえどひゃっけいうえのやま
名所江戸百景 上野山した
歌川広重／画 安政5年(1858)10月

本図は「上野の山」への入口付近を描く。画面右の2階建の建物は、暖簾に「志楚(しそめし)」と書かれているように、紫蘇飯(ご飯に芽紫蘇、あるいは紫蘇の葉を混ぜたもの)の名物で知られた伊勢屋という料理屋。1階には鮮魚が並んでおり、2階は座敷で客たちが往來の様子を眺めている。

画面中央の鳥居は、五條天神社のものである。五條天神社は古くに「上野の山」に造営されたが、寛永寺建立に伴い、上野山下に移転した後、現在は「上野の山」に戻っている。

うえ の えき
上野駅

明治5年(1872)、新橋—横浜間で鉄道が正式開業すると、東京から北上する鉄道の必要性が高まった。しかし西南戦争などが原因で、政府は財政窮乏が深刻となり、新たな鉄道敷設は不可能な状況であった。そこで設立されたのが、日本鉄道会社である。

日本鉄道会社は、政府事業として計画されていた東京—青森間のうち、東京—高崎間の工事に着手した。当初は品川や横浜まで結ぶことを計画していたが、山手の起伏が大きいため、工事が容易なルートが選ばれ、東京側の起点に上野が定められた。そして明治16年(1883)、上野—熊谷間が開通するとともに、上野駅が開業した。(高崎までの全通は明治17年(1884)に完成)

開業時、駅舎は完成が間に合わなかったため仮設であったが、明治18年(1885)に煉瓦造の駅舎が建設された。大正12年(1923)の関東大震災で焼失し、昭和7年(1932)に建て直された駅舎は、東京の北の玄関口としての役割を果たし、現在も数多くの乗客が利用している。



とうきょううえ の てつどう きしゃしゅっぱつ の ず
東京上野鉄道気車出発之図
井上安治／画 明治時代 19世紀

本図の中央に大きく描かれたのは、明治18年(1885)7月16日に完成した上野駅の駅舎である。開業当初は建設が間に合わず仮駅舎であったが、完成の建築は煉瓦造に仕立てられた。駅舎は延べ面積237坪、瓦葺2階建てであったと言われている。

また本図左には、明治15年(1882)に開業した馬車鉄道が確認できる。日本橋や上野など東京市街の主要な場所を走り、錦絵などにも多く描かれた。



とうきょうめいしよしたや じょうき はっしや の ず
東京名所下谷ステーション蒸気発車之図
歌川国利／画 明治16年(1883)8月8日

上野駅は明治16年(1883)7月28日に仮開業した。本図の中央には木造の仮駅舎が描かれ、上野駅開業当初の様子がうかがえる。



うえ の えき まえ
上野駅前 昭和時代中期